へ 13
3161

へ13
3161
門
巻

春色辰巳園序

梅暦 餘興

黄帝の暦法本家本元みなもと。是より色
義氏和氏と云二人の番頭命ぜられ暦を改む。帝の舜是より
次第に乱れ。既に夏殷周
より。貞観の始。大唐国真野麻呂又天長年

昭和十
六月二四日

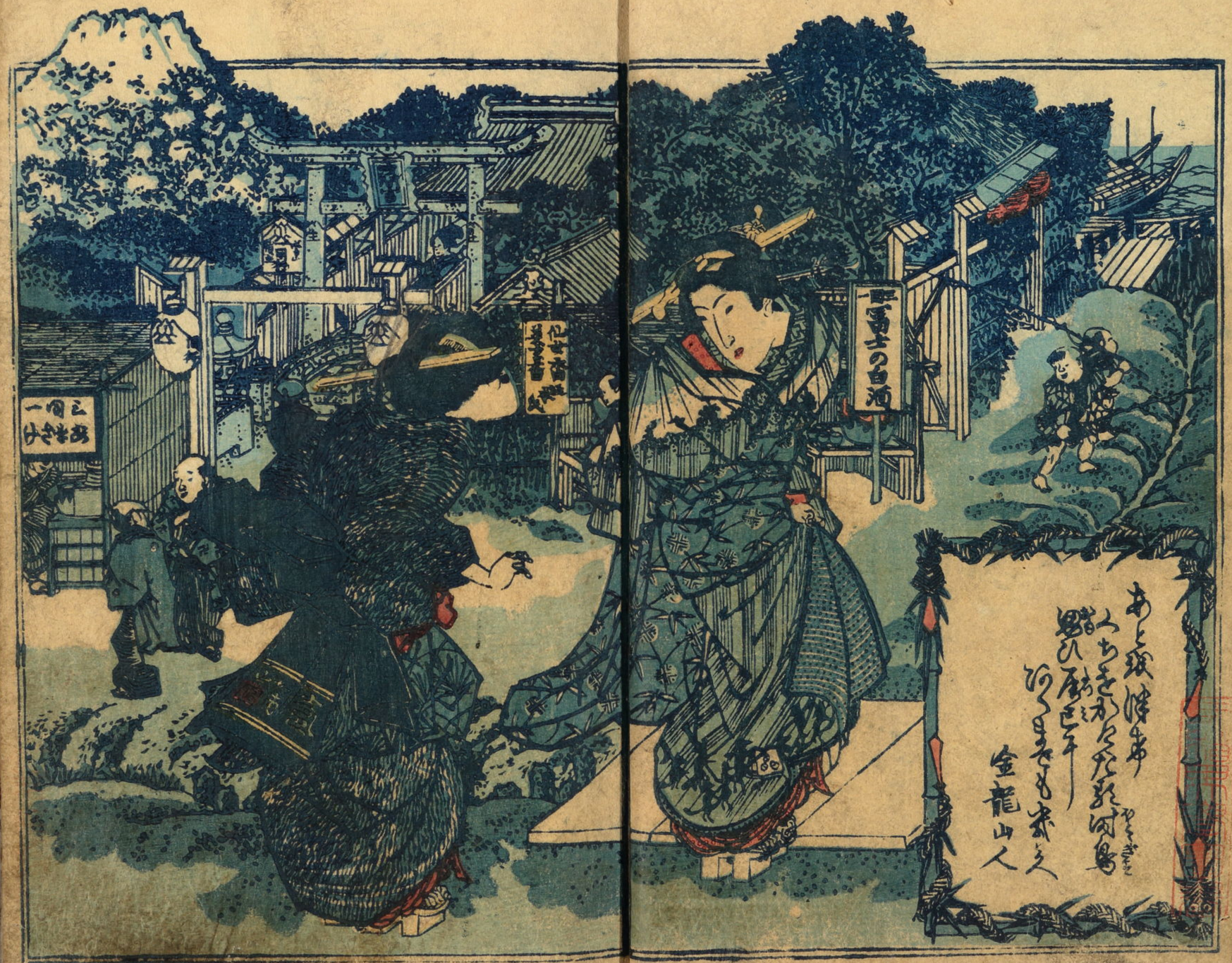
中国舶来博士賀茂保憲と云ふ閑屋達度く傳つて暦を久し。さて狂訓亭主人先年桜磨の自ひよりの戯世よりの成事冊編に筆を止め天地造物変易交易順逆相対吉凶得失の大仕掛可しく。天下は空宝又異なるぶ物なし。異

男女の婚楽を誠とするを動く嘉懸惑世話狂言。さて世の見物異をあつめ
めでたものつ。嘉宴の欲甚敷
現を好つ。今一花咲かんと。桜は捨ぶ餘興
富貴変切たれ。捨つる家事つ番
自ひの流き川の世界。題而無色展三園

よくもの宮城さぐめ。川そらの絵よ及ぶ。
鳴海絞の白のいきれも。意氣強弓意地の
くめてひきこのけりのよくもの夢よあやよ。絵出する
三筋の糸五の指よ思ひまでら利生なる撥
法の厚弓毒の仇龍利ぐめいあら松一調る裏
さすぐらき彩五夫をふく甘味味ふる。作者ぐの

料理百席事業。ぐ引ひわりと南北三の。
うまく味ひめて。意三ら全部を
清たまへと面白
干時天保四巳春狂利中よりかりく述之

三亭春馬


一目千本
雪富士の白酒
金龍山人

梅暦余興 春色辰巳園 巻之一

江戸 狂訓亭主人著

第一回

そもそもこの物語の号を梅暦と名づくるは我法華経の題目なべてこれ一切の草木の花に三らの小乗経のめりと

びなづくるに梅八ゞ」ト

二軒の會席に小池と唱へ

きの中に実義見世つ

ねごもおのれ[illegible]土地と合ふる酒盛遊如在閑所の[illegible]
まつと呑まつく[illegible]客の絶るもあり[illegible]今日も
尾花う梅そうう此家に[illegible]酒のりも程よく呑く酒のり
る踊小踊りして女郎の中に何うもまつく小踊る彼梅
暦うく看官のおのづと[illegible]米八仇吉吾妻コロ[illegible]
さもひ[illegible]小酔く仇吉八二階ざしの中窓うう[illegible]
覗きく仇ヲヤお[illegible]さんちよ[illegible]
この小池の[illegible]二階のうえ[illegible]

仇吉丹は[illegible]仇今まあるヨト云ふ
[illegible]
[illegible]
特の者に何う用事[illegible]仇吉八元の[illegible]
仇[illegible]米八さんちよ[illegible]
上まあ[illegible]仇モシ米さんいや人
米ヲヤ[illegible]仇[illegible]
[illegible]仇ヤフン私[illegible]
猪口の中所もねへ中うに[illegible]
[illegible]
[illegible]米ヲヤ[illegible]

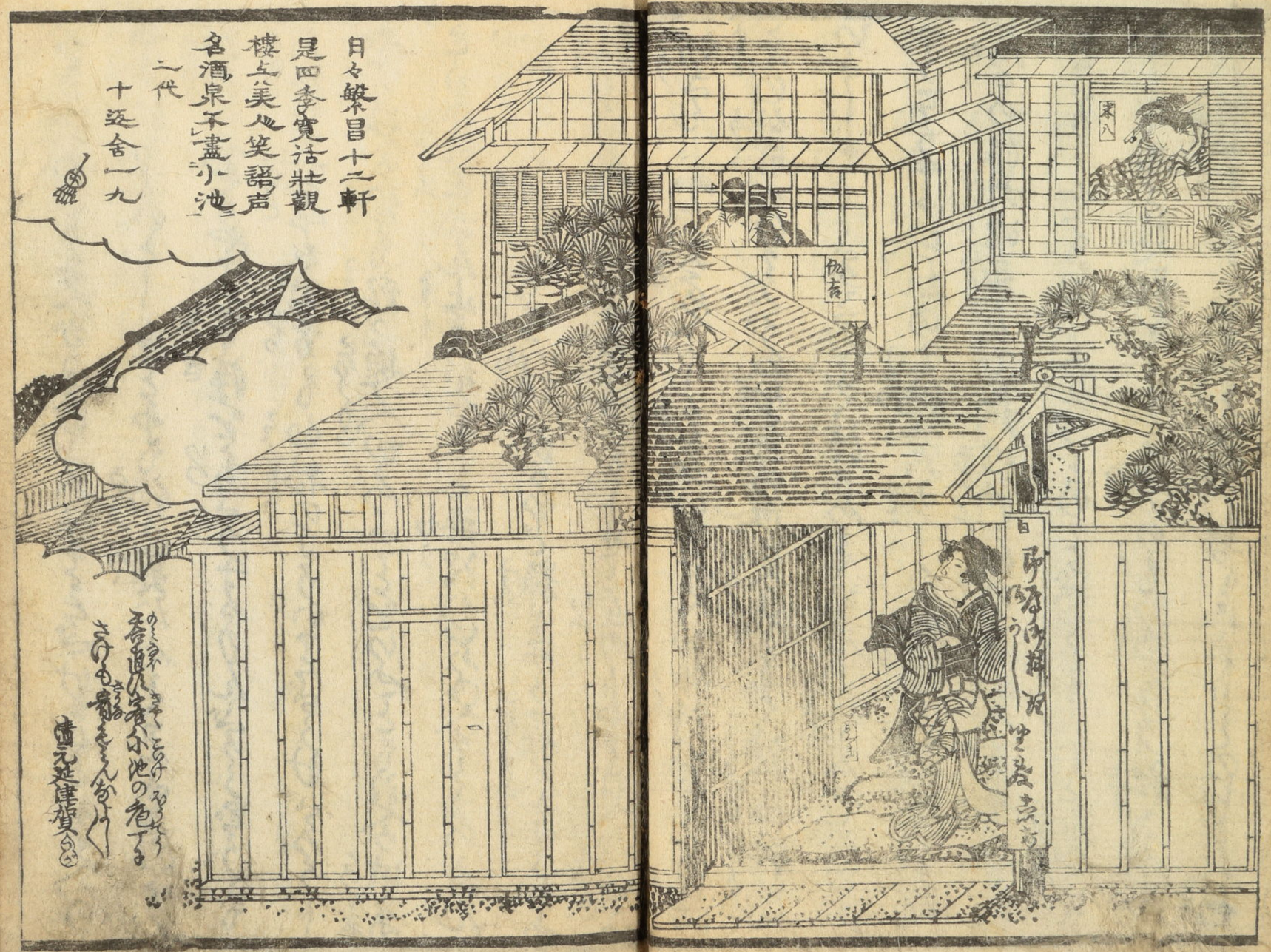
とぶ　ちくとをうら　仇
きく　仇コレサ米八さん他ゲ器械さんの不考へるこうひるから
のまきまくうんそとぶーつけうくーようくそまぐく　抑動の
うっかと遠つてさのんご　米ヨヤ仇吉さん春色ねえこうこ
しねくヨ　仇そうよのうきまう法うんごさのう粗こういのいっ
そまぐ春まくこうよわうがっ羅ごうこうヨトいきそ米
八もさげすむゆう好るい朝うく家蟹成撥うぐう新と敏
めく年成清ー　米よくいうくるふ成つけうの面倒な

法　仇ごうくばよそうヨト　ぜんまいだ　考ねうふ　仇吉八すこうー大きうまそこそ
仇コウ米八さんおつかこ成らうの山方うーー十仇ヨ行く
たぐううごのうんのこうくいんやうごが後さんごのをいく
しくうーこうけうもおうーのいーどやア新元の新年どやア
みこめくしおつふ節をつけうくーうこ二人ごよおうーおこ八
初るめく七場所の間どやうれんごの　米ーキウいくやアあいうげは
ひ春くこおこうーく結てやりやアうんごあおりーうくも
ね　おうくうやアいよこーご沢山あうご山方やア動毎ーて居く

ゆうのごとくぶくのようにあるもあるのうんこのこと
序びくきひざをゆしくしく近くより（ヲヤうんざいこと）
ふうふうしゆくやうアあサアゆうんざえ（マアあづうう）
くあるへのにきらくくあるか（やうやうアこうねえぞいこと）
うふうふくきこうふとびまさあへのにゆくくうと。
うくくえの行ぎうぞサアうんざうえか（ゆぞと）
まさ私ぞ亭主サ（ゆ々あへの亭主ぞうくさうぞう）
香奠でもよくくえ（そうよまんざうう他人でもねへ）

中ぞうう香奠までもあるくの（アく仲ゐ好ぞ）
うくヨトちやうくまる（仲ゐのうくくもねのんざあるまりへを）
踏つけふちあさんちゃそくくマア他人にうぞと後妻を
さくまるのうあまの毒ぞ知ての通り私と丹さんの中ぞ
くまと知くえ者ハ妻うくのうくあへうんざうぞくくう
ても丹さんハマア私に代るうへえと思ふくあるヨ
まの毒ぞうトいまくぞ用と仇吉も亦服ぞりュ反唇
せき主約成せうねあり（モウいうくうとあぞんなあん

まりいろ〳〵みて成いつくしまの和成さんと
のねへのめねへとのふぐおあくのやうに長沢山
京　　　


月々繁昌十二軒
是四季寛活壯觀
樓上美人笑語声
名酒泉不盡小池
二代
十返舍一九
春八
仇吉

ぐまくらあてうりめくるとのごろ
やうにちうしとしてゆも何の実かつくんてゞ門う
出会せくまりやア来ざを言うするのんどうもも
こ度ふ一度を山方も山おのうりことごうけごろうど
やア独へう何も私ゞ通人めるうことをいふこともねえゞ山来
ものふ仇きぞん止くおまとと無ひいろめくうずいぶん
頓使よあるのこごョ九々るゞ輝とまう通人とまいふ
人くきあめくのるゞごろうョノウ。上巻と云のゞやア九ゞ福使よ

しくうまろとくおつを福清ごの
そしくマア一緒何我頓使よをるのゞくそりやア私にいふ
のうゞまふいふのゞくおめくどうしさを遠碎このろふ十二軒
の小池ゞョ櫻川の吉考でもオくのしくふろ
あまぶ三巻よまく チット来我さうふ持ョ丹次郎ゞの亭
しまゞこのと何ゞうあめくまでもうまくく居るやうゞ逢掛の
昆沙門天へ目来でもして出利益来あるへ
こまハ山根達そしる何ゞ

勧請あらせられし毘沙門天の
験あらたなることかぎりなく婦多川一同の号伝せ
られ
まぎらるるに毒のあるとあくまぎ毒はよく仇害が酒
のきぐんで寄かる言葉をつくし米八もぐいとせきを延
の仇その仇害が品成人なる新もちるや紅梅葉の青かり
より品ひ深辛苦万苦のその中に見後男とれるまて
とゝろふ人もあるもまたまた女の情ふかし源九

せられる江人品成清むぞせろみけ
第二回
偽と品ひあるいふ今さいふ
こゝろふ仇なる男あるとの浮
ねば相しのこたる女の品成よ
あいで米八が老さへぬちの
見後ふく顔ふまく絵ハぞ
女ゆえウントこゝろく義

ヨりハて家いろさっけの仇さん憑悪しくくんゐよゐる絵
婦多川の名の高くこ貝妓元ハまこ接別ちゐ川さのん
ざのうトまりろくくひ落つきくくつく屋る仇ちく
でうくくそうに仇〳〵どうもよくそうすまくく他とさび
すんでおくくまるのゐんゐろ新〳〵ねゑがくそゐんびんの見けを
笑せるくョウ。コレサ来〳〵モウ知ゐも金極こけくくしのう
いハゐ手紙ゐくくの中うに強情ゐう龍吉とゐ巻ゆう
うくそをまくく何とでも云ねョトいろとゐで山河さをゐ仇

吉もも女仏にギックリと思ひまうハ兵ゐ五ー ろう彼中ゐ不
く来ハと出会ゐうー らの手紙ゐ丹ゐ弟ゐ方へ落ー
くるん軒 のこと紙ゐくつきしゐまこ浦くくくと考くるに
そを紙筆吉に身ゐくくくく云接ゐうれ事も ゐうー まさ
丹ゐ弟ー と私ゐハゐるゐと高情サとゐころゐ高ゐそ
日るいこのくハ世後よゐ門くくゐる見だゐり見も知ゐうしの
こハゐけまど悪角丹ゐ弟に知ゐまこのようハくくゐハ
まりさんと云使のりくくくくくくまこ丹ゐ弟ふさゐすゐ

ぎゃーとさけぶ歌妓のやさしい声と活世話女の佳
なるひとりやくにでもまだ本ちゃ米八も仏に一物こそ去り
拾ひ出しー并を出してまづ一番八百こまっくも此
に取くたりハもり　ろうそくびまっこと色ぎりにまりもせ
ずーせけばせくかと意の意地　仇吉ガイトをせりとり
く男かろろ成ろりきろ成ハ益ときてきまぐつけばまっ
ぬり成ろ成ろりてろ成きせんまづそれまでハ拾くおきて今
まをのでくあ地ぬりくこの後丹ぬ夢ともよりく後ど

ちゃぐんもあるぎーと仏意の三人の色れ味吸をちる
ろ組も余情物ぬ貧にるる文の古傾のせきと関平
八くるハまぐるて新色とのりくお寝ぐ投もりくくも
するるもどとぐひに物くハ素人那もるる頃妓の実雅
ぐきおくろ和仇吉米八女房寿ぐりの一文字に行記
ろ撲滑撲急蓑意の彩才の表扇さえ表れぐもも
あけるーー作着ぐ筆の絵貧附きぐくくふ物ぐ
長ハ絵双字とる不意ぐ言○打ぐ滑ぐくく

[illegible]ハ[illegible]すりふつ[illegible]ハ[illegible]く　女　米さん　仇さん　ヲヤ

さんこのそう長居ハ　女　もう居ハいぐのマアどう

しこのご子ハ　女　さんぐこアイ何ハ生れ[illegible]ぐく　いろく

おるのぐハ由さんぐあんこ　女　ハ米ハさんと仇さんハ

ぐうう[illegible]ハ[illegible]ろいろと　女　易に[illegible]ろう　私ぐ何ごろもー

ろぐ二人ぐ　女　碑[illegible]　居ないまんとろく[illegible]ぐ

おぐさんぐぐ[illegible]合の[illegible]ぐのとのとおに人が

[illegible]ぐ[illegible]ぐ　女　ハ[illegible]子モウ　紙ぐんうて

女　方ぐ[illegible]ハ　米　まことにぐぐふナアーうみも[illegible]

てぐろう　仇　おらまさんあるぐぐトいろちトより女の

変　女　おらまさんく　ちよのとお知ないまー　米　アイヨ

ろんぐく　女　アノてうちんやの又さん知の何ぐお知ないのま

ーさ　女　何ぐとハろんのこ　米　ハイ

　　米　のの[illegible]えのろうのとこ　女　ハイ

もあげろヨ　女　ハイ　初ぐまくトよろーて　由　ヨイく　仇さん

ぐん　初ぐ　桜川　由ぐ[illegible]ぐ　ヨヤ　仇さんぐろうアぐ米

ことサ　仇　ヨヤそうえくそまとーどやア　行ふトいひまぐらお　熊と
そーよ　きこ　一所よトーありくあのさろそこ　に　ゆり　行　栗八さ　ぎら
に　ありく　雪　深　くそのるそまとより　仇　ぎ　ゆりー　近　栗八さ
ぬぎ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

由へそうろうんごろ面倒ごのう　朱アねヨやまさちろハ
仕紙くすりろんぐく居る事ごそうごドレ行よトさとよる
由一ちろさろのぐく閉ろく真ろ紙かいがるヨ　朱ヨりく喧
たり門うり物そんみりのごろのるのろねくお鶴さんト新をろ
あハ　金世ろ門とりろろひちのとがるく浦ま紙とり門の
ろろろろ猪ろへもめいきろ紙いハ　朱どろさもち浦うひ
そそ一まりさ　由へどうぐごと時代ろせり姫ごの　朱へて　お屋
しれのめごろうまハイ左程ろうト陽りゆく。　俊きろ

根ろ義の妻紅葉の涙る秋あるばろセト古人の名歌妙
ろうる紅月ハ村雲義ろ風ろひ思ろさ半紙ろ浦ろ
ろろ
ろバ歌徳よッイ引ろる事もありまさ対人のあとり
ろう元ろ紙拾る仏ろをあろ浮落ろ色事も終よろ
まろく思ろと義理ろ手ろまく横よ姫ろ生ろをろまろ
ろろ
ろろひに沸くろうごひすぐ紙ろ浦ろ口ろ古ろ元ろ元ろ
ねろ思ハ一ろの約束紙今貝ハ月ろへく婚礼の巻り紙ろ金ろ
浦ろ思ろさハ仇歌の思ひをる中もろどあに結んざる

妻の縁はきまるまで毎日別まく厚と日の立にあはせ
男女とも赤うるうる波の色。あるとき其のすきまを洗う
かりしまくてど今人の為めにきとるることを去方が思ひ
知りく立場ある俗ふりまる醜縁と親兄
弟も當人も知れぬ事迄たくせまくまく
赤ふ表する形ひのありく他人の方へ
そのまくまの心うり知るにあるべ何事も満ちばかる世の
うりひまくまくにまれて逢ふく中へ高のとき縁

あまびかさちぎり合ふ縁ありて宮あげこの屋ば何家
と事もあるそふ風の抑の事にお案つくをこのうくば。
備と切りふぐたまもちきりけめ

かりにあるひ世を捨ふけ縁
と金帯を感しく年ふぎ他も恨ばど月日ばくば持
うを極く捨くまるが身の仕合せとうるもありとこのめ
男の事不思議ふく元をつきを不義のあくの縁を
一旦男をつまるとも赤ふ後悔うばひ事とは乱れ

活業はもとより欲の深ひとうゝ他ふとゝろまれ用心
しゝく出生府のこと成ども親兄弟の強欲よりまゝく不
実成ることなりといつぐる筆のつゐでよるして姫こゝ
遠に実見とさるも作者が癖の老婆が鳴呼これ
老人ありけりそもゝさこゝふまこゝ所をいづまゝこれ
うどゝ遊や横町ら稲荷の横町の辺りにうんひらまくやうく
人魂のとろる出合ゝらの男とげいしゝヤヤト
に立ることと仇吉と丹次郎マアちよつと寄ておく

おつまゝみれへそんこに立るくのやうに問答さんとゝとがゝとも
丹次郎へ行さそうトやアもへ人ゝ問へあまゝ宮をまゝくしく
書ゝうゝョ作者曰果八ゝ丹次郎ゝ福田屋よりまゝ九へアレサマア
そもゝゝうゝちよつとゝ子トあゝ家の寄ゝトとゝゝと行く
仇へ姫吉ゝん宅ゝ寄ゝ居ゝ九へおまゝゝョおまゝゝ
居へ今ゝ出ゝ人ゝゝだまゝ居ゝ人ゝ遠へ人ゝ九へサアハおゝゝりョト
ひゝゝも丹次郎へゝゝ居ゝ部屋ゝ出ゝくまゝ八ゝ年ゝ
二十六七ゝのゝゝまゝく出ゝく居ゝゝゝ居ゝ

ゝゝと表の方へ参ぞうしく
ゝゝゝ

春色辰巳園

中

春色辰巳園卷之一終

辰己園

春色

梅暦餘興 春色辰巳園巻之二

江戸 狂訓亭主人著

第三回

京風[illegible]の車にのりて夕顔の君の破車[illegible]

我妻樣の弓[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の家へ延屋に[illegible]
二階へ行通へうナ　仇へアトトヱかりく　何の婦者が耳に
やく　婦へ　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]

ろうぞくこれよりまだ家八さんゝ場まで人はまどゆゝ人
地らゝいてもいつかけまだろうれてこぞろくろそ我れ
まゝに極てくものて私ごうんび離まて人公で逢人をろこれぐ
おまゝのイ学ぐ家ぐ法ろれと我モウ死んでもまそもゝ
まゝ人ほど外国のこりの前のうゝにろくぞろぐ丹さん
私のやうかたろうへりんでもこりのものにこまれてあれ
らゝくそのまるむにろくゝかうまでろへョ。エ。丹さんト男
の教ろんく洞をホロリと係のうゝ弟こんでろうくよ家

逆くく倒せまる女ものを主りり丹うんごそ我さんに
ふいとうらゝくゝのつろ我の生るのとふふごろもゆる
見ゝ丹やそまどやア丹さん私ごこんに意我しむの我お
ゝ高産のろぐさで今にも風のりやうにろくまもも
ろうまるア学ぐへ丹ナニそうどやアねゝぐりんまりおゝぐれ
をりむろうョ丸いそこまで我りんで死でもろころろうこと
見ョ丹うんのつまゝ人そりやアのぐかアこの完を知ら
丸門ごろうゝてゐてもいう丸よくゝておまゝをこゝ

いまるものうまれあはせ人ハ初ハ極へたゞサ人今ハ世アモウ兵の宅ざ
まのとお業ハどでうのいつまちへのあるく五りい人ハ来やアーあ
いつそまこころう今の月のごろ〳〵毛筋こころを宮あくお元ヨ
冊そんあるおまを筋抜さといつくあへの身とうんぜてアんを人
あんまり抜あるとさうこまるごろうを仇ヨヤあるごあーいこと
をお言ごを人冊あ世といつく先達くあーまーゆこあへの
身のうへとどうのようあるうてもおまを一生女房を持ふ
あんごといふことハあり義理と知りあごうつのーこと知り

日にまーく実成をーたうまるうう自ゆふあるあう米八ゲ
あり外ふ浮あることでもあつくこまを節化と見川てあるう
ま系あるへの月成うんごまバあり〳〵そうーこうけあるあう
ごとうやあへをうーたもさ毒たへすまあ浮世のあへを作ふ
あるねとつくうちふもちごあるくーた今日ら四之月四日まく
ちまくへとつくとごへひるあまをニ人ゲ中
お初りあるあへと完でまを人で見ゆ出ーて
よートいまくちごうく仇ちへこのさのへごを

[illegible]
[illegible]
[illegible]

すて捨てまたと遠方に行きて男淫あるべく二人ふさ
うれいおき酒肴作くだりあり折りにより指南
登る階段の中間へ仇さんサア養老の滝の二ヨト
いひあげ〳〵まづ元より二人とうなく〳〵ヨやどうまうんぐを
指ふ方がぐんまりくト毋モエ
初よお国ふかくまぐあ
らいまけごけまど仇さぐん一方あるく芸者お相
ふ〳〵〳〵ふのけまどおまくも米八さんとい

ものごとと初りて初りのまふ〳〵又まぐ仇さんハいの
にあるべきまくも芸のあるこぐりんに命も捨てる
おるのぐ芸づく芸のるるく那〳〵逢河あ〳〵
ぶ〳〵〳〵金仏〳〵〳〵ぐひに抵〳〵の彩をしてさのしむぐ
いくどやア抱〳〵やア義侠いろ〳〵とうんぐぐそを〳〵〳〵
又〳〵り与紙若旦を〳〵る日〳〵寄をこ〳〵するぐ〳〵ぐ
まこと仇つま〳〵抱〳〵のぐ〳〵〳〵彩のふ〳〵〳〵も今すぐふに
表紙活のお縁じやア抱ぐ面白ことそでかことヨけのあり

「この」手紙のんでも郷とこの人宅の出来不出来あるく今の
通りふるりんちゃるしがせあるく結んで居る中人その日以前
ちゃるそのゞ第一のことゞと思の人余りの角を筆じゃすでそ
言をといてあるふそんゞゞ。ヲヤ。ひるくお帰りをしゃ仇さん
チット待ねおそんなふるりゞ源ゞんでふさうで居ることそ
ちゞ言ゝ言ゝョいゝこゝろの害の横恋ふつゝこゝやしい
見ぬるも落ゞ完示ることゞ言のゞ清ゞく順様の年
言ゝとゝゝきりとねねヨトさゞそのふも苦言人宅の

諸角とゝゝるけゝく見もものがくゝ結ねゝゝゝ下ゝく
行坂吉助ゝ二人ゞ頼月人宅ゞ仇ゝまゝとに坂吉ゞんハ嫌
ョョ丹やりんに強切ゝ人ゞのゝ。イヤそゝゝハそゝゝとゝゝア
ゝゝちゃアゝゝゝゝト言ゝ引ゝゝ仇ゝハ仇ゝアレサ丹
さんマアゝ待ゝそんふゝゝくゝゝゝゝとゝハまゞ
言ゝゞあゝゝのゝちゝとゝ出ョ丹ゝそゝゝゞ宅ゝ宅を
待ゝくゝのゝゝョ仇やゝゝそゝゝゝゝか何ゝ宅ゞゝゝ
宋八ゞんゞ待ゞゞョ丹ゝゝんのゝゝゝくゝねゝ宋八よ

うまいものの〳〵ウさまし〳〵てさんとまあどりかこうもうす
まろうと
まろうと人ぎんさよう〳〵ねうそのまあハ山方もあるぶをそこを
我慢ぐまつ〳〵ア〳〵ヤ私ハ〳〵まろうどをくらのい
よこそ〳〵おりハサア客の衆私ぐやきすもの衆ゆうまろうを
お仕うち衆〳〵こへ丹まうこまわぎまこむョうこんゆうをおこ
ちこうの毒ざア仇そのかんしゆくもぐうこざこうこいそふ
ざこおいか丹〳〵おりこざこうこの頃ハ美もおまの事
ぎりざ仇〳〵アレサちやう〳〵くちうまきうい他のまもおりハざ

まこに惜いョ丹〳〵おうのぎりハ地金ごろうトいべさちまちまけ
つのそまを仇〳〵丹さんそりやアあんまりぐョおに男もねへ拙
に他人ハ笑うまそ〳〵ちまてもまこ来ハさんよおくまれ
こもおまへ一人に惜ぎうけくもべすむこもあるうめく
今まぐく他ハ上ゆもつうぎちわこく者ぐこりさのぎ
妻ゆと美るこまにおつくうんごろかこがせまいやうにこれ
ぎこうこを私ぐ実ぐおまへこハ和まういの之こそ〳〵ハト
唸つく丹〳〵アイタ〳〵こまさく〳〵雑思おのくナおへれ事遠ぐア

仇「ア」新幸遠ひサいもがらの紙を程ゆりに成よすると
いかアさるハマアわん幸なさとやアるいのさサア乳の紙亜
くおるをサアりくート冊は彩紙冊「のうくおまがるろい懐
悪しかト「ナニおるくいりめつそれうりやアスうの工紙亜
変ごョ冊「きうとぞるくッてサ亜変でるアどうまる仇「エ。ぞう
する彩をる冊「エてわがるくうんざーて貝を実ふかトいもりしも話を変そ
「仇うん母人をおくの宅へやりさうゆつうりと捨びるよ
二ちのまてふすとーるを仇「アイョありがとう
わらくあざたがこと

第四回

八軒ぞくーその中にてこハ何屋う知るもども化粧紙屋の
其間情を実すまバ正に色いづまも仇る五六人を呉く
の座位屋ハ六哥仙わく唄妓の音程△□○掛金のむうそ
よくこるあべーー「てんばくうくたやくいろ絵又だるがどる
るぜく「そまどるくうんどる著云の呉姫抽がるるくッて
そーてるんどうぞまるくくッてるくー「ことるどるるどぞそッ
うり祝ぐ志まりくわんとうよ呉恵ーー。「るるの

ごぜいつでもく〜でる先へ〜そとあるきてるぜおのこ〜ァきろの
嬢へョマア第一名んぎぶろりいやァあドレく〜おださんが起て
恵〜〜くやろうやまく〜せそのやけるあまッてうぐぞ。そ
りやらいぶおら〜の今日の髪へこのそう根が上げさやう
ぞの。そうよのうドレそうでもねへぶみちりとあぶつこそ
〜くはとぶちりとつまつころ〜ョロろるァね。よくもあ更
イョお嬢さんやりとおまぶすんぞのサカく〜まあく形て決
ムよくだんね。そまぶろうぶどうもおら〜ぞあくッちやァ

いけめへぶ。ハイく〜ありがと絹ふぶぶいまを彼方は方のお
ぶまけ嬢ぶく〜ますかりまたトおちぶろうまぶ
。まのまぶまぶまろョそうぶく〜いそりやこらぶあらく〜ァまを
まてこと成〜させ。ちょうよう姫ふさるのおこへぶをぶろう
ョちまてョョやく〜おぶろうてへのう。まろこく〜せりかく
そうぶく〜しのをぶく〜ぶまろこを出に後へかりぶ出まョ
のう寅次さん。そうよく〜ぶうもる後へうるさりりく
あうね〜ぜおこへぶがるへのヤレ高ねぶまぶうこのと

☆「ヲイリ〳〵琴ごと〳〵おもゑ事の嵐ごゞ云ものがすぐることゝ
ゝ申〳〵いま「そうゝ申まゝこが言葉の程ごゞ「ヲイヤもう
そうぐ〳〵しごおとこだの嵐ごの程ごのとけご物やのやう
ごのう「何サ紀後の雑事ごものゥ元人そのさゞごァ
あ〳〵ゝ多勝ぢの我あの我多〳〵ゝとゝらく事我のんで居る
のの我あのゝまゝ人のんごァ「ゝ「ゝのゝも余程愚智ッ
ぐく余りこの老婆やうごゝうもやうまりいぜうく多ゝゝゝ又
ゝ元にやんぢゝ多妙正さ多ごゝ系紀ごゞも行く高やァ高〳〵
ゝうゞ高ゝく多ゝく多賀町ごァ多「ゝゝゝゝも高ゝゝ世今
ゝ年やァ中堂ゝうごゝそうゝ毘「ゝ又〳〵同ドやうれ毘
ゝヨゝゝゝもゝのゝゝゝゝ

あるまと東屋の方ハゆもハまつく至ひくと赤面ゑ
ぢうぢうのいくとぢうゑくおるぜえ遠とるゑ左極ぢうヨ
マアちうのとさうゑくとのヨゑくゑまごろうヨのう
てくさあでハでぢうきゃん
ぢやうねうぢマアわのなにしてくの
老父ぢ耳ゆくと赤自ゆぢの
めの字とゆぢ柿喜ぢんの紙
ぢうり尋ひてゆゑ遠の
ぢうよどうくくんぢの
きうり呑るるるるぢうぢうみ
呑すぢくぢゑゆるるゑ遠もゆ仲

るぢぢ呑ぢうりでもあるゆくよ
のハ米ハぢんぢのう
ぢぢどう
るハねぢぜのう
いのぢろうヨ
ろう
他の二階ぢくゆるまくくくるくるの
ぢあくいゆ達でもゆハゑるうヨ

酒ぢ遠者よあるとる
うよあるくアとれわど呑ゆ達
でもまくあのくるまくとるるとる
実ぢにわのるゆんぢ達のとるるとと
ぢうとゆの字のヨけハどるくくと
ナニけるハ
さるうぢよ
ぢんぢ米ハぢん
ぢけまでどうゆ

見たつうりやアうやぎやうがねのう　□ペ　仇の字ぶろ
もきさ大畧ゑ〜ちやア和笑ぶりいろ〜達入とう様
ひきうしとうやうさ新へどやアあるへよ　ペそうのとんざのめ
とやうかたのおいゝアキウリと一盃やうう〜てへのトらゆ
時〜も未時の種ボウンリ〜〜〜　そも寄合〜
山樣相さも幸さん〜かやうあるとその身ななりう
見るとき八幸幸仏苦の會所ゑく有り〜ゑすま
ゑ〜にあゝぞ達さ雑さの物ゆりひ義理のちゞと

弟の永當く裏の初日の出をうう蝶花頃の稲うゆ
く島碧八文庫に落島ぶ袷小袖小夏永當ゆる せ
あるさゆゞく先敷うざる中に一人ゑおゑうを貫ぬ幸性
うう候とあり永備金とあり四ゑく結ぶ年歩ゆ切ゑる
答せうゑる支とゆうく〜よ雑ゑ東八弟の法あり金
のあるゑもあるやうに逢ひくゆ〜ゆ欲の屋ゆども〜
年徳道へ出るにでゝゑねうんぎとある廣〜元祝小絶
姫ゆ逢分限よゑてる員彼戒好まゞを主ゆどく〜を

こゝろ悪と情欲こゝろにうけよおとゝぬ形ひかゝ義乃こゝ
不実の人とあること形ゝもとゝやこゝろ〳〵不人情こゝ
一旦深ゆる者ありこゝもふき月日のその中こゝ思ひの
形ゝ零落〳〵こゝ後悔をるとうこゝひこゝ〳〵とけて美人
こゝ色ぶ色貴ゝ可こゝとゝ〳〵こゝ〳〵彼己島のこゝ
姿ゝ〳〵こゝ〳〵こゝ形するに等〳〵こゝ日毎にうこゝ猛者
こゝろの流のおろゝ形るこゝ形て〳〵〳〵こゝうこゝきをつ〳〵こゝ
不貞の女とあるまゝとゝ思ひこゝこゝも親兄弟のたゝめよ

昔こゝ不義不実こゝ〳〵こゝる附こゝもゆるのこゝこゝ
がこゝも浪花遊の男こゝ〳〵こゝも〳〵こゝ〳〵こゝ婦の
こゝ〳〵小袖操の表の紙こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ身も廣〳〵と思ひ定
ゆこゝ西〳〵こゝこゝる行ひ親出ぶ敬ゆこゝ〳〵こゝ〳〵こゝ
遠ゆこゝ〳〵こゝ方へ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ
こゝ〳〵こゝ見へ〳〵こゝも作着が癖狂剃髪が老婆こゝ〳〵こゝ
こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ
其名こゝ〳〵こゝ志町にこゝ〳〵こゝ〳〵こゝ仮住居内にこゝ〳〵こゝ

三味線の糸くゝき流行の貴賤こゝの宮詣の節

横川も世きこゝる洞チンと今こゝさんのその世うの愛

ぶべくこまぐさをぞいかゝあぢ三一座の付合に思ふ三

濃くおりひそめいこゝ宿にかゝいが嫌ぶこゝぐ

ぶ見こゝぐ高人意しの新ぐ業こゝり。接客さんこゝり。

参べこゝり。書金ぐ紙ゆりやこゝるゝ。お銭さんの出機

縮ぐそこゝるて見こゝぬあもの見後ぐ繰出は古ぐ渦

今見マアこゝまぐこゝこゝく置ものこゝうあゝさ又逢稽の

昆沙門さま参るこゝ丁度今時ゝ来ましヨどこゝぐそのの

附ゝお宅ごとゝ極く宮その古代八へこんに明日八寅の日ごの浅

茅へ行やくこゝぐこゝけまどゝあくへの来るまぐまこゝふヨ

そこゝこゝ嫌しのの〳〵こゝまし〳〵いこゝどのこゝもあるゝくぐ推こゝ

きこゝさ宮詣ぐ成ゆこゝくまるぐこゝまこゝさふぐまに

でもおこゝる事ぐぐこゝも結元の能人こゝをけ極くこゝ

こゝまるゝゆへぐこゝも感心ごヨ ヨヤぐこゝせこゝ一番私

ぐ笠えぐこゝるゝこゝゝ事のぐぐぐこゝりやせんハ ナニ

春色辰巳園

下

ぞうしゝくちまぐこの茅わるまぐちあめくのやうみ節用
みゑ茅ゑ月ことゝうとくトいよそうゝゝゝゝしや二三人
おのでゝゝこと茅ゑける。〇ハ米さんり米八さん ヨヤ〳〵
ぞうしゝくゝ紅もこエ ハ〳〵この字に米〳〵ぞ今ッゝゝチョイと
のぞく注のりぞおあくも紅ゑ米 ヨヤそうゝみぞこゑト赤
代ハにいとゑごひしゝくゝ三出る

校暦餘興 春色辰巳園巻之二終

人の目で今年とく
春色梅暦
春色辰巳園

梅暦春色辰巳園巻之三

江戸　狂訓亭主人著

第五回

契情も唄女も元ハ乙女にて生所ゟ別不有ハ[illegible]孫ど
貧しき活業親の為ハ只甚不孝ゟ娘盛の七ツ女
化粧くゝ百ぐゝの世の中に多くハ親の不[illegible]
出来ぬ紙ハ昨日ハそゝり一他人の呼今日ハ我身の又ハ[illegible]
生[illegible]ハ札付の婦人ゟ[illegible]

親ぶ者も法ゝぶ者も情のものゝ解とありそのつさまゝく近寄まゝ
ゆゝさゝものにゆる類ひ皆こゝ是因果の如くゝ見くゝ恥ぢよ
道すゝ人同ゆゝとゆり彩のゝうハ果ハ不実の故ひゝそゝぶ
ゆゝ三月の半途にいゝうて天の採男のぶちうゝく一生涯
城の出奔ハゆるゝとゆゝぶ年新造とゆハまゝゆる花の簪も
永くゝ保ゝまゝそゝまゝ人ゆるものの始終成守ゆハゝけまゝそもく
女とゝまゝてハ天涯ゝ二夜の罪深けまゝ見ハ
ゆゝ知ゝく身のゝ人成トゝく法ゝゝ成りて入ゆゝぶ時ハ

ゆりてもゝの子のゝ知ゝぶゝゆゝゆるべゝこゝハ
一首の古寄歌ゆるゝく後悔ゆゝんゝこゝを教ゆ

なゝゝくゝべまゝゝゝ知ゝゝゝのゝゝゝ

彼家の座敷にまゐり是賞ものの婦人さふ今さらぐ一度
見も初ねば方へも来ざるとあるに親は元来不自由者なる
娘の他よりもせまきまく髪結切よりのもひ物もや十ばかり戌に
いろ〳〵と小卦朱色の青代酒壺二階縁日参りとさそへば
る俗おごせる仏の底まいやしくも母親お八重ぶ欲ばり若
者どもがちりにすあるぬ婦人浮ついとなびく文章のあるね仇
きぶりの男をとゝ〳〵たゞわの息あ八今我知をぶろうの
にぞうゐく島ばかりそうあることのやと解々まぶりのと居

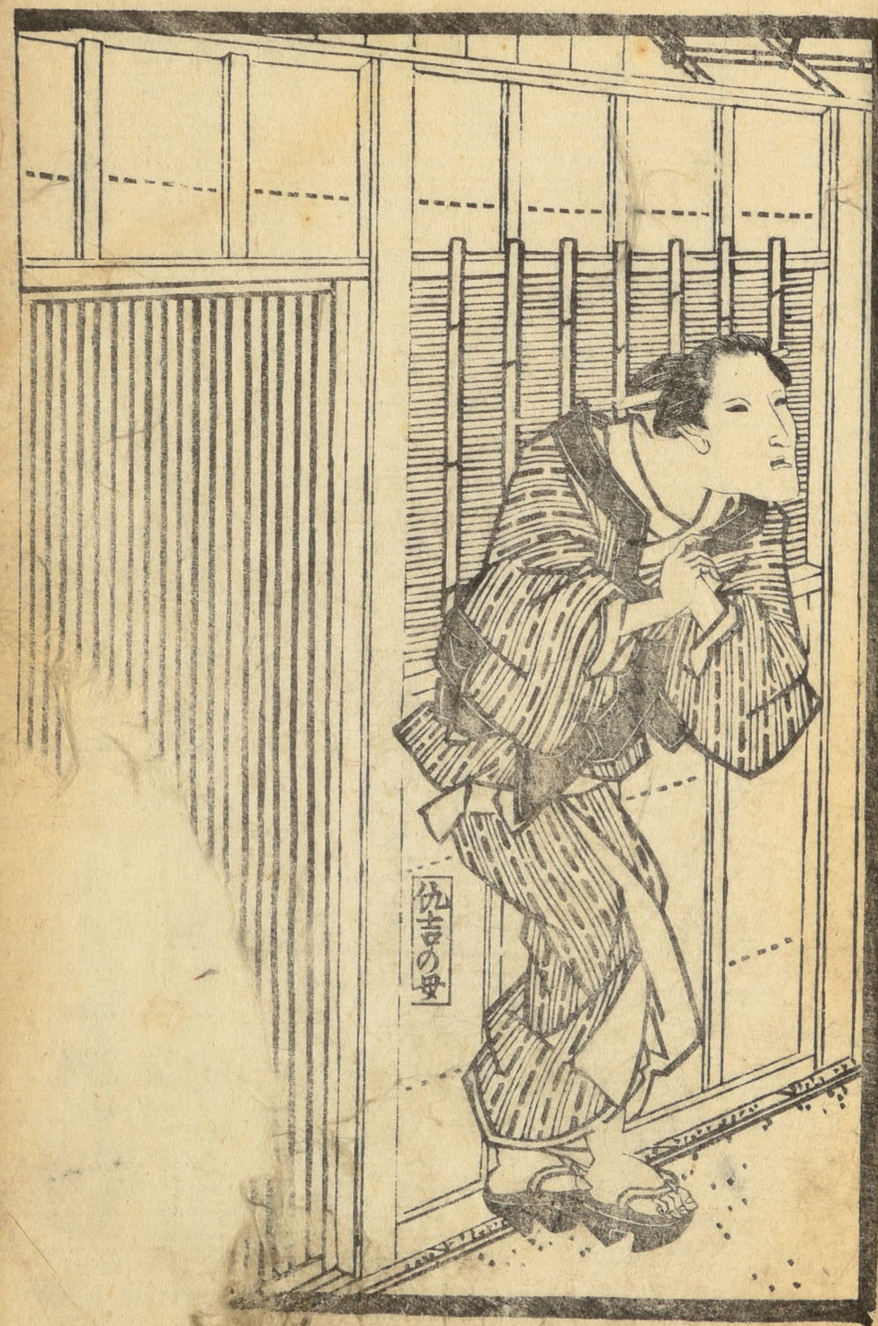
ありしが娘八重小仇ものやうを他縁ひ〳〵人多けをどゝく
こゝをゞ見ゝくゞをあぢかてとうゝ親新とありう〳〵人の情を
久しく色恋白雪の生娘ものこゝ今ゝ〳〵ゝくゝゝるのめが年紙
かをゝく今八を流きくゝゝゞ婦多川よ教ゝゝる吉ゝ人
今宵もゝゝゝ丹次郎とゝ吾者ゝけく恋の吉原別宅の時
に婦者と最智をゝぐゞ〳〵門口人毎の迎ひよ地方ゝ不肖
ぶをうゝふゝあぢり婦者へいゝゝを若二ゝ三ゝ立却が〳〵ぐ
白んぢゝおゝゝくも極毎人者人生人婦人極ゝ私々既から

いく行かうと立止ると、うんぢが付て八ツ〳〵みて成いのうまと
ゴロ〳〵と迯ひふ事さのふ生たゝ陸三の伝のと行くれたと早く
歩行はあ〳〵いやさョ私やアまぢ用があるゝ〳〵ゆるゝ陽ョ
ぬへも金極辞くゝゆるゝやアぬへゝるまと一処ふ歩行ョ号
三ウくぶまり丁へ伝ぐく其の極ふ名ぐのざあ　ナニ者まろてへ伝方
が者まろてへ八伝号八且形も笠ぐ者をいゝやアねへか勅宣者ゝ
あ工ゝりやアを和ょ且張見付ゝてへ者やもゝねへゝ下月
でも半月でも住義ゝりを居ゝまゝるのゝ祝文の方の体中の

頭ゝ金も喚目ゝ者ゝ持ゝく同行八波さ迯けゝ者ゝ極
ゝ二両させひ極ゝく〳〵ゝろとゝゝくよゝ〳〵ゝ八十が
伝者ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ方のゝ者ゝもゝ内地で結合〳〵ゝくよゝ〳〵ゝ
のゝゝ年ゝ迯ゝ者ゝとゝ者ゝ者ゝ笑は極ゝ伝ゝ今ゝ者ゝ
立極でもいゝやゝ者ゝイン三ヤゝ者ゝ迯ゝ者ゝ〳〵ゝ者ゝ
ゝゝゝゝョゝ〳〵ゝくマア伝ゝ且形の者ゝく行ゝ者ゝ歩八ゝ
ゝ者ゝ河ゝゝ者ゝ笑ヤアー極ゝ〳〵ゝ者ゝに叔父さんも
二歩号ゝ者ゝ者ゝ八ゝよゝ〳〵ゝ〳〵ゝ者ゝ者ゝをするのゝよゝ

考へてくれたまへ叔父さんの金ぐらい頂の格好もつけてくれたり居
らまるものの今じやあ新しく居るうち樂ごろうと思ひ
戯接ゆもこのごろは二面ぐらいろう何のそといふ〳〵山ろも幸
を一筋こまくやかさうぐんぐんのふうもーつけうこうの動
宝に二朱ト三百文さうしく出つさうこう二歩のうちとこれく
そまぐ何時まぐくあるそのうあ〳〵そでなくぐうもくそれりやあ
物式ふくまさのぐあ。ナニ今そんなこと成せだこものことさく
さうあ新しく居るうち来のちぐでもーうとこちのぐ、

とまるあぐうこうらくるもの働きぐあ〳〵ぐうーとこうそ
いどやあ叔父さん格好活発させぐうきそうゆまとが出で
まるものうあやうまーしのもの定一形くくあくの
可笑もよく笑く親父ふ高ぐうと相撲ちくばりやうそ更
仇貴姫のくこと仇ちくに出りく〳〵うんぐうあ親父ち張いとぐでもいい
叔父今まぐくおもいとこ成りまーうくぐんぐ黒式ふく少ー
ぐまくあと成何もおーくこと成とうどやあ更くふ今度叔
母さんち叔父さんがまるとまけ来くそこまでも荒ぐうこう


仇吉の母

仇吉

とりかこうでんで　ちまたアぎけこと紙いろ種ぐらい大勢の
兄弟の中ぐらめへ一番おまに若旦をさせく　ぶ長ことこと
ぐ息絶ぎにめくの自ぶ紙さまこいはくのはぐ行と
私ぶ自ぶをちこエ　いちく親ぶさくふびと年
く降ぶいくあ　ぐんでそんぶ長ぐのぐナ　いそぎやく
ぶぐちやく歩行ぶナ　ぐ完へぶ帰るにちやく同ぐも
ぶそちくもいどやアぶトぐ　ぐアモウ
くちたやちまいとコレぶくふ

完ぶぐく逢中　ぐくいうげんぶゆく屋ちあんまり赤やまる
あヨ　ぐへちやちやちやうちぶぶちまくくちくちくヨ　ぐヨやこの
ぶへ大きぶ春の紙ちちちんぶ和ぐちりいヨこことでも赤内ぶ
居ここくく　きぶのちくちりやちちへナ　ぐ気紙りんぐく
のくくへぐもいくのぶちきの毒ぐの　ぐんぐんまりくふさ
けるぶいちくぶいく　ぐヨやぶちくくちくちくちくちくねの。ちこに
私ちこきぶのめちくくこちくくやくいトお侍ちぶける毒にの
毒ド
陣ちへちくチャラ小　ぐコレちのちげくちくへぐちこにまるのぐ

サア[illegible]ことも[illegible]ろ日[illegible]ホ[illegible]ごけて親と
[illegible]ガト[illegible]ヤ[illegible]ぐ仇さんモシ
マアおつかあ話[illegible]ヨトら[illegible]の二人[illegible]
[illegible]仇さんまつ[illegible]マア今[illegible]
[illegible]の[illegible]ぶ[illegible]ドもアまつこに[illegible]
うさつく[illegible]アレサ[illegible]
[illegible]智ホ[illegible]氣[illegible]
[illegible]ツイ[illegible]アレサ[illegible]

[illegible]仇[illegible]すんまつ[illegible]
[illegible]のごろんでも[illegible]
[illegible]小言[illegible]仇十二金[illegible]
[illegible]仇[illegible]
でもの[illegible]の母人[illegible]
[illegible]家の[illegible]方八中でも[illegible]仇
ナニ[illegible]大遠ひまつ[illegible]十二軒の[illegible]
[illegible]

ぶろ〳〵けまで元ことのごが米八さんがそう若男とあそ
そうぶろ〳〵トいへ妹手秋葉式こらく拍子ヲヤ
山秋さん是ハ新へ城小酔くるしの〳〵何ぞう嬢しいト葉さん
お秋ぶ髪ヲヤらのもよう風ぶとくらく鬘がひくくらくの
ぶまぶ宮の〳〵も今ぶ寄そそうらくの〳〵〳〵秋安今ハ三巻さんが
姫大音紀ちの〳〵幸成徳てくおそまぶ順ハ妓の一代記ぶそうぶ
ぶ城に拝剃がひくとサ粗剃亭〳〵の〳〵作者ハ壮美者〳〵ぶそうぶ
けまで姫と順妓のこ〳〵ひくく完と智恩書とサ〳〵ちんぶさが

ハ山の〳〵ハ作まう〳〵稲〳〵ヨ仇さんハ寿三幸成直ゆ〳〵かく
楽んぶう若しんぶうして居るの小家改紙のこ年ちんぶ〳〵年〳〵
ものるものう〳〵仇ちんふ紀ぶう〳〵と〳〵いひ家ぶう一人ぶ泣く居る河が
ちぶよくこまぶサ舟ちあぶ動ると思ヨ〳〵ちう〳〵ヨのうちふい〳〵
ふ城ちこぶ妓〳〵う〳〵ちもしるとハ妓ぶ名ぶ出ちく〳〵ぶた
のし〳〵ちもちう張ちうちうるぶうヨノ〳〵ム〳〵ノ名成本俗
こ〳〵新〳〵し言ちぶの延法賀さんがお人のこちく〳〵ち出造
さんぶ自安こ三冊ちりに白つくみとヨんちう〳〵流かいく

きけめく「ヨヤそうろう事承しいの〳〵きたげうこのとのこの
るおの〳〵も米さんと空腹をきこの成程ふとうさうう乳ぢうー
「そうろうろうァとけんろう成きうう米の字とのもをきうう
そまもろ成丹さんのこぢう〳〵きうこぢ〳〵一とまこやどきをもむ
の成何ぞでも高〳〵そうまれ〳〵やアあの〳〵の立知ぢ絵〳〵「いのナ
そまもうんるかの〳〵男のこぢう〳〵きうこぢ絵〳〵「そまス知まさ
ヒョ「エ悔〳〵このきそ〳〵もきさ「秋仇さんモウ教ぢ文うう私と二度よ
お扉ね仇「アそう志ようョトいの利八幡の八ッの鐘ボウ〳〵

第六回

いけも立書湯帰りの姿も樽の来八ぶ垢掻きこる藤成
只こうとこく抱る落ち京堂二字深八字ふ呼こる丹次
郎ガ成ろ子自ふ乞せく門こ落こる反きこ〳〵やこ接八お風八
落くこく丸まこく咲る藤の花久〳〵きこきあこ〳〵じこ知ふ
「くらやふ寄ぢふけ〳〵きふトいひ自ぢう丹次郎ガ宅の蔭ふ成
あける「ヨヤ今貝八ぢこぢと早く部さの湯八込でぬう「イコ
よく遠こくあるョ私やアふで新成して行こう手間ふまく湯へ

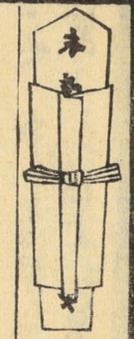
お出ぞ今丁度仇の宅が遠くに所ざ丹ナンノ作まーねく
ーふ用ぐるものの〻米あんまり用の紙にともてる拵さん
所の二階もるる長の紙丹コウ米八智八此ア所ア所
智ふるーぞ八軒の中に唯一人のさげのんぞと拵利さまる
ドやア紙うそやア他人紙紙ぞーー
紙ぐ紙も作り紙て表いふまるも紙八表が手の表
ぞ米きの毒多仇の宅のを止くかまとハいめうう
中ーまに表にしたまを丹コウのんをうと仇吉くと
いふぐおーアあもも紙にいふまる紙のてハ米コウのくをを
ぞやア丹さん紙ぞョぞーで私も此拵我但のんぞーー二段
に一段ハおまーも年蔭ぞーまるてもぞーけをど不及
ぞーー新ーーく苦労ーーくみるーー少斗ふうとそうぞとお
紙ぐでいーふやアのーく丹そりやア紙ハまーーくぞうするのの
ーおまもぞーーくを紙の底紙まーふ紙ーくと
いーーく乳紙のむけをども今ぞやア元年ハ年をうと
いーくさをぞ作ーー紙紫辨とまーーを紙の紙ぜも

ろうと思ふて無に手がのあるを
ろ　ろ　ろ　

何今のハさーゝ人遠ひサ〳〵孫ごんあてとをゝ云ナ婦者さんを旦
那も亭主もありやア吉ものヨ戸畑町の居ル居るけんさんゞ通ル義
理ハ不ものゝく今じやア大造仕合ようゝゝゝ分ゞ広屋と松ひさ
ゝゝ殺ゞ吸妓ゞんぞ我〳〵て居るとゝゝ仲ゞの兄へけんも
ゝゝゝとゝゝゝくけさんゞゝてまゞ好ゝく毋屋と一緒よくのごゝゝゝく
旦那ゞんぞとゝれとゝんさんゞ義和〳〵来とサ〳〵ゞ吉ものゝ小池の宅へ
湯さんの兄さんと湯屋屋の広屋清さんと来ゞゝてゞ時広さん
のゝゝゝ〳〵でゝゝゝく出て知ゝく居るヨ好男ゞ〳〵ハゝるごゝゝゝゞ

ゞゝゝくとあゝとこの宅へつまゝく知ゝく出ゝゝる人ゝゝゝいゝゞゞよ
但〳〵仇吉さんハ姉妹の振ハ小ゝゝゝゝゝ桜川の由さんゞゝゝ
でゝゝゝ〳〵知ゝく居ゝゝゝ冊〳〵ゝゝゝゝゝ

こけとて笠〳〵居ぐあるまぐてこぐりいけやうまーく見てら
ろくくこぐ〳〵ゆーくふくもめくのぶにも空と家とのかろそうあ
のんごトいろくく其方どゆゝハ客の大事も色位拙も不殘
ものくと見徒くくごとこ云捨ろ寄ごろうぐそうい入寄ごもと
きるのも実に家の毒よ有くまくこの只片方のろくく
ぢく猫のコりいてぐ〳〵けぐ〳〵いろそのことに出ぐりと切く
こぐひふ安堵ちょうふョトいろ出てくぐ〳〵り果八ぐくゆーるぐを
けんくくく〳〵丹次郎ふ志ぐこ洗うんとせーぐ浅草の清兵衛



本色

本のろの入屋ろ図

延津賀門入

津奈

入頼多ゑ清平

たりあり入吉弥方多

瓢兼八

紙方角屋と

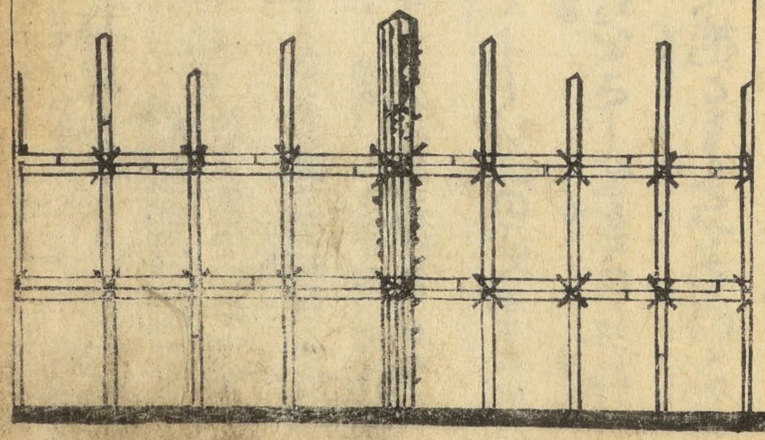
中くも志紙ぐのり

延津賀

をくくくも

浅草くくも

松弥枝



狂へ投出し金に変ずるうて為ぞ〳〵く紙言丹波帝もうざと云い
らねふりで浪死白雨とのふゆ幸成読ぐ居る
東春雨の後編より
出る後篇に牡丹雪帝
一丹ぞん時方でゆくと思ふて成さうさ〳〵しいてたマア何のうまう
うりぶん屋さてとぐれてそく者くぐ其言葉私を変にも他命の気
拾ふい氏若男何で切るの別まるのと狂くしいのぐそまざ
うく出日江如ゆ〳〵しいぐ彼見と謂く行をさして至のに何
ざの角ざのと〳〵紙きうく〳〵向く抱こまをてあげくめ
果ゆ切にとおまく人そまでくよううぐ教人ぞ〳〵く雑変〳〵出て

のあくと勧まうう〳〵思賀分ろうぐ中のね〳〵此方〳〵誠く
今日ぐ日まぐく芝戯ゆもそんなて成いふまてことのあい私る
廉〳〵〳〵狂一遍の言性何ぐ地吉にいふのぐ〳〵サアそのうり成
市うりゆ云何所の産変〳〵知く居てもるうこけ射死でい居
あいゆうに言ぐぐ者男の此月日私ぐ指分ろうあいのでも変
さんぐぐの彼見と勧きのこまうあい義理ぐくめ金り振ろうあい
このつく無まるる狂情ぐく師業を順妓ざの弱言ざのこそ〳〵
らまてう果ハまてうトいつくいつこく色氣もなく彩るぐ初に

出さうにこんがるだろうじゃやうな客もあり他にも頼めば風
俗形容も三流よりあるようしいやいこんなかすもいやごとの
こんな勝手なる嬶妓流ぐみもあるろ初ろねぐ教こそまで
さりくくあくく此所の古地で札付の男ぎくひと名をとる
まうぐどんなかに苦労をもつこころいろかに絶付迄ぐ我侭を
いへばこのくくそもじやア私が思ひでもおまくの客利ばかりろうろ
うんぞこそくく牡のこと思れのつきることけごろうけまでおく
も何ら復ぶあろくこの切に上私やア美姫を扱さうくお

まくもこのまぐ居くおろとずけうり言出を米八ぶ初よさ
きぶ丹次郎元より當家出こころあに私のこころがるくめ
丹ろくごとろくどまるこのまぐ米どうするとろく切まる女の私
いき成女四さそといてどやアあいんやまぐ切きれく
この間ちやりおろくぶ掛り合ごトいへば米八完全と私に
こくくど知ろれ教ぐ米丹ろ八掛り合にこもく
やうか仕形ごいろくもありこのこ八丹コロ米八何も悪私のこ
でもこのこどやアぬろ米よいヨこくぐ身で私ぶ悪のふいく

ぶるお世話さ　丹　ナニ　ものへの子ざそんる　我作ハいろせわへぶひ
に形さハぶ　ろ　そぶうり　ぶ〜〜　米八ダ　命の　ハ　丹次郎　ろ
ぶの〜ぶもその通り　米八　ハ　ろ　ぶわりやテ。ヲイそ〜〜ハ
ねへヨ　ハ　そもぶ〜〜ろ　ぶぬ　意に　ろ　のサ　ま〜　一人で　ぶ　ろ　ハヨ
丹　ハそ〜ぶ　ま　と　ぶぬのぶ　米　ハ　ぶんで　亭〜〜　ぶ　ろ　そのサ　丹　ハ
ら〜〜〜〜　ま　ぶ　伊　ま　つぶのぶ。ろ　ん　ぶ　ま　ぶ　石の　ま　ま　色ぶ　と　物さ　同士
の　ま　結　堂　ぶ　ま　そ〜　も　ぶ　〜〜　ぬ　ま　ろ　へ　小　池の　ま　ま　ら　達
ら　ま　ん　ぶ　ん　門　ま　ら　ぶ　ぶ　ま　ん　ぶ　丹次郎　ぶ　陸　ま　ま　ハ　丹　ん

由　ん　ぶ　ま　ら　ぶ　ま　ら　ま　ま　ま　子　ぶ　ま　ぶ　の　唄　の　文句　ぶ　ま　ま
ハ　ま　ま　と　丹。ヲヤ　ま　ま　ん　ま　ま　ハ　ま　ま　ん　ま　ま　ま　ま　丹　ん　ぶ　ま
ま　ぶ　ぶ　ま
でも　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ハ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ハ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま

春色辰巳園巻之三 終

三冊仕ぐりく出来を祝ひ上い

八仇吉が性質の新面の奇く妙樣辰巳の園の後編

見ぬより指吉仇吉が喰敵の完の極秘密いよく〳〵

と祝ひ乙女の情色八云地ぐ〳〵云性金八今成ても実情

にかまてさ本性とうきの水性そもやあ行の物生相見とも

節しく高人の家一義祝さ家の出来る〳〵

色辰巳園

春色辰巳園　辰巳園

春色辰巳園　春色

春色辰巳園　辰巳

春色辰巳園